

近代ドイツ法学のバイオグラフィーを求めて ——ラーバント遺文集とその周辺——

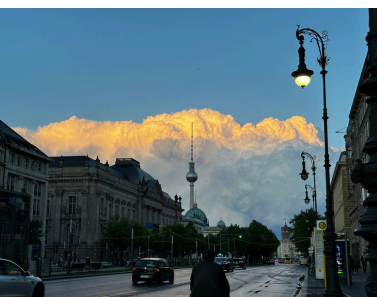
藤川直樹 先生（法学部准教授 西洋法制史・ドイツ法）

12.16 火
13:45 - 15:15

ポートアイランド第1キャンパス(KPC1)
B号館 2 階 B215 講義室



近代日本の国家形成と学問構築に多大な影響を与え、今なお知的魅力に溢れるドイツの公法理論——。ユダヤ出自の法学者パウル・ラーバントは新生ドイツの西の最前線シュトラールブルクに拠在して、第二帝政期におけるドイツ公法学の支配的パラダイムを確立する。彼の死後、遺された文書は或いは親族の手を転々とし、或いはユダヤ人迫害の中で焼却され、或いはソヴェト赤軍に押収されて、ドイツ再統一の後に遂にベルリーンの連邦文書館で再統合されるに至る。法学者ラーバントは同時代の法的諸問題に如何に応答したのか。ドイツ各地の文書館で史料の断片を拾い集め、近代ドイツ法学のバイオグラフィーを追い求めた二年間の在外研究の成果を報告する。



主催 神戸学院大学法学部・神戸学院大学法学会
連絡先 神戸学院大学法学部長室 TEL 078-974-4543
法学会（研究会担当 表田充生）